

横暖ルーフα

工法

重ね葺き

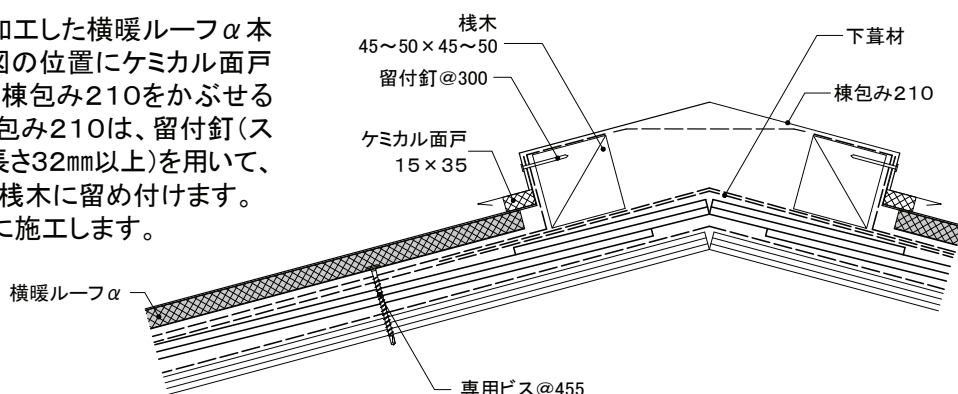
既存屋根材

セメント系新生瓦
アスファルトシングル

7) 隅棟部

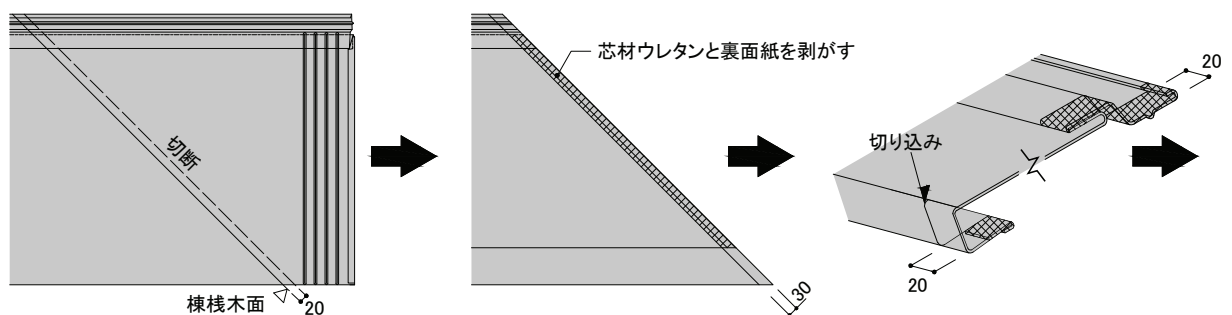
① 棟包み210

- 既存屋根材に、下葺材を張ります。
- 桧木45～50mm×45～50mmを4ヶ所(50×50の場合は片側2ヶ所)取り付け、桧木を包むように下葺材を増し張りします。
※工事中は棟包み210に乗らないでください。工具・部材も置かないでください。棟包み210が変形するおそれがあります。
- 隅棟部は図のように加工した横暖ルーフα本体を施工し、本体の図の位置にケミカル面戸15×35を貼り付け、棟包み210をかぶせるように施工します。棟包み210は、留付釘(ステンレススクリュー釘長さ32mm以上)を用いて、300mm以下の間隔で桧木に留め付けます。
- 剣先210は図のように施工します。



■施工ポイント・現場加工図

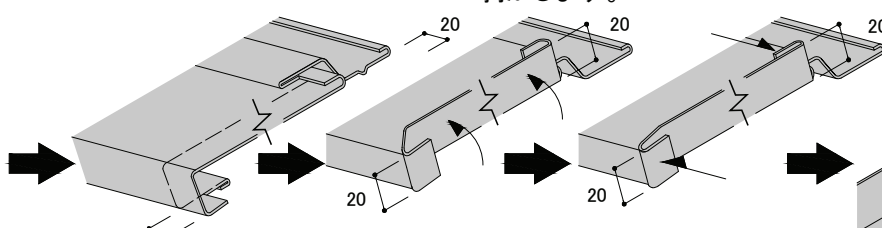
- 横暖ルーフα本体の隅棟部分は、図のように加工します。



① 棟桧木面から図の寸法で切断します。

② 端部から30mmの位置まで芯材ウレタンと裏面紙を剥がします。

③ 網掛け部分を切り落とします。



④ 切り込みを入れた部分から垂直に起こします。

⑤ Rの部分をつぶします。

⑥ 接合部から雨水の浸入を防ぐためシーリングを充填します。

■剣先の取り付け

- 隅棟に棟包みを使用する場合は、剣先を図のように施工します。

